

令和7年
2025年

1月15日
水曜日

第11632号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料（前納）
年間 82,080円
（税込み）
6カ月 42,120円
（税込み）

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町18-1
TEL03-3663-2011 FAX03-3663-2015

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



全国食肉事業協同組合連合会が惣菜コンテストを開催……P2

注目のヘッドライン

全肉連が惣菜コンテスト開催、大臣賞は「ひね鶏の大葉ナゲット あんかけ」

全国食肉事業協同組合連合会は、学校法人後藤学園武蔵野調理師専門学校で「令和6年度食肉惣菜創作発表会ミートデリカコンテスト全国大会」を開催した。

…詳細はP2

日冷倉と東冷倉が新年賀詞交歓会、業界関係者約600人が出席

…詳細はP7

▶ 全肉連が惣菜コンテスト開催、大臣賞は「ひね鶏の大葉ナゲット あんかけ」……P2

▶ 11月の牛肉輸出は前月比15・1%増、最大輸出先は台湾……P3

▶ エスフーズ第3四半期は増収減益、売上高は前年同期比4・3%増……P3

▶ 11月の豚肉輸出は、前年同月比6・3%増で輸出額も増……P4

▶ [調理食品支出金額・11月]合計1万2853円で0・1%増……P4

▶ 伊藤ハム米久HDの穀うまがITIの2025年度審査会で三つ星を獲得……P5

▶ 焼き肉店の倒産が過去最多の45件、大手チェーンと競合で息切れ-TSR調査……P5

▶ [鶏肉需給動向・11月]推定出回り量は前年同月比1・8%増……P6

▶ 牛肉輸出再開など、日本産農畜産物の輸出促進に向け中国出張-江藤大臣……P6

▶ 日冷倉と東冷倉が新年賀詞交歓会、業界関係者約600人が出席……P7

▶ 宮崎、岩手、愛知、千葉で今シーズン25~28例目となる鳥フルー農水省……P7

▶ [輸入副生物現物相場]平常日に入り、需要は落ち着いたが当面、下値は限定的か……P8

▶ 「大阪焼肉・ホルモン ふたご」、2月5日「ふたご感謝祭」を開催……P8

▶ [資料]日本食肉流通センター週間市況……P9

▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数]14日……P10

▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場]14日……P11

食の感動体験を創造することで
世界中の人々と食をつなぎ続ける

スターゼン

<https://www.starzen.co.jp/>

エスフーズ

S Foods

<https://www.sfoods.co.jp/>

全肉連が惣菜コンテスト開催、大臣賞は「ひね鶏の大葉ナゲット あんかけ」

全国食肉事業協同組合連合会(村上幸春会長＝上写真)は11日、東京都豊島区の学校法人後藤学園武蔵野調理師専門学校で「令和6年度食肉惣菜創作発表会ミートデリカコンテスト全国大会」を開催した。食肉販売店での新しい食肉総菜の開発を目的として、応募があった1321点の中から地方予選を勝ち抜いた各道府県の参加者が一堂に会し、国産食肉を主材料とした新しい総菜レシピのアイデアを競い合った。なお、同大会は農水省畜産局、独立行政法人農畜産業振興機構(alic)の後援と、道府県食肉事業協同組合・連合会の協力の下で実施されている。

主催者を代表して、全肉連の村上会長は表彰式で「大会の趣旨、関係者の意見などを踏まえ、食肉店らしい総菜という点で、今回は審査基準の見直しをしたが、その結果、これまで以上にどの作品でも創意と工夫にあふれた提案がなされ、素晴らしいものばかりとなった。今後もこうした取り組みが継続され、食肉総菜の魅力を消費者に知ってもらうことで、小売店の活性化とともに、食肉の消費拡大に少しでも貢献できればと期待している。全肉連では本日の作品を参考に、食肉店で販売してほしい総菜として、レシピの開発に取り組んでいきたい」とあいさつした。

競技は、店頭で販売される4パック分の量を材料費2千円(牛肉を含む場合は2500円)以内、調理時間60分以内という条件の下で実施。審査委員長を務めた後藤学園の中村昌次理事に加え、NHKエデュケーショナルコンテンツ制作開発センター生活グループの矢内真由美チーフ・プロデューサー、(株)Studio coodyの浜田陽子代表取締役、料理研究家のきじまりゆうた氏が、食肉の特性を生かした味やアイデア、普及性などを総合的に審査し、入選作品を選出した。なお、参加者が作品のポイントなどを語る発表会ではお笑いコンビのエイトブリッジ(別府ともひこさん、篠栗たかしさん)、俳優・タレントの大島璃乃さんがMCを担当した。

審査の結果、27人の地区代表のうち、「ひね鶏の大葉ナゲット あんかけ」を出品した兵庫県代表の木村綾花さんが農林水産大臣賞に輝いた。木村さんは「ひね鶏は卵を産み終えた鶏のことで、産卵後は処



分されることが多い。食品ロスの削減やSDGsのためにもひね鶏の魅力を広く知ってもらいたいと思い、使用した。ひね鶏は少し硬いので、ヨーグルトに浸けることで軟らかくした」と説明。実食した矢内審査委員は「すぐにでも商品化できるような完成度の高さを感じた。SDGsの取り組みとしてひね鶏を使うなど、消費者や食肉店に対して未来に向けた投げかけをするような良いレシピだ」とコメントした。

そのほか、農水省畜産局長賞に秋田県・丹羽萌さんの「和風ハニーバターおやつチキン」、農畜産業振興機構理事長賞に神奈川県・峯田慎さんの「やまゆりポークのシャリアピン煮込み」、全肉連会長賞に福島県・石井汐菜さんの「たこ焼き風鶏団子」が選ばれた。さらに、審査委員特別賞も4作品選出された。

表彰式では、農水省畜産局食肉鶏卵課の伊藤大介課長が「食肉は余すことなく多くの消費者に食べてもらうことが大事で、消費を拡大するためにもおいしく食べられることは何よりも重要。これからも肉のおいしさを引き出せるような新しいレシピを開発し、消費拡大の一助としていただきたい」と祝辞を述べた。

11月の牛肉輸出は前月比15・1%増、最大輸出先は台湾

財務省貿易統計によると11月の国産牛肉輸出量は931t(前年同月比10・5%増)と、前年同月を上回り、前月比でも15・1%の増加となった。

輸出先国は合計34カ国・地域で、国別にみると台湾が最も多く173t。次いで、香港、米国、カンボジア、タイ、シンガポール、ベトナム、マレーシア、マカオ

と続く。表記以外のその他の国はオランダ、フィリピン、インドネシア、ドイツ、英国、イタリアなど。

11月分輸出額は56億8614万円(0・6%減)となり、キロ当たりの輸出単価は6107円。輸出内訳は冷蔵427t(9・0%増)、冷凍505t(11・7%増)。金額ベースは冷蔵が6・2%増、冷凍が7・0%減。

2024年11月の牛肉輸出状況

単位:キロ、円、%

	香港	米国	カナダ	カンボジア	マカオ	シンガポール	タイ	台湾	その他国	合計
	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計		合計
2023年累計	1,520,136	1,142,401	87,801	1,132,958	142,157	544,264	474,497	1,691,904	1,684,614	8,420,732
前年比	111.3%	106.5%	115.1%	125.1%	155.5%	91.5%	82.2%	135.8%	110.6%	113.0%
2023年11月	176,753	58,017	7,239	166,918	3,088	44,797	41,438	180,795	163,786	842,831
12月	144,900	143,194	6,517	100,078	10,823	60,961	62,235	216,277	164,380	909,365
2024年1月	93,924	129,025	6,662	42,333	20,912	36,552	53,969	108,089	111,321	602,787
2月	106,221	195,190	8,890	75,398	6,407	40,718	20,912	114,096	126,697	694,529
3月	109,950	105,922	9,383	96,112	8,851	43,304	42,641	180,855	174,134	771,152
4月	119,742	102,543	5,601	95,206	15,243	39,566	63,942	210,433	126,716	778,992
5月	95,420	90,606	7,563	25,478	15,103	41,019	26,046	137,164	114,502	552,901
6月	101,840	104,383	7,050	63,414	15,164	43,356	64,800	184,507	187,379	771,893
7月	126,184	84,567	9,772	53,919	10,297	45,565	44,538	186,096	186,915	747,853
8月	96,559	114,269	5,361	59,356	21,576	41,357	84,125	201,243	140,972	764,818
9月	148,383	159,276	5,669	82,831	14,282	41,270	100,588	180,022	188,821	921,142
10月	134,727	139,379	13,220	34,092	25,847	45,898	64,294	162,626	189,009	809,092
11月	172,858	151,958	7,838	88,228	22,207	56,168	85,096	173,067	173,693	931,113
前年同月比	97.8%	261.9%	108.3%	52.9%	719.1%	125.4%	205.4%	95.7%	106.0%	110.5%
kg単価(円)	5,045	6,076	7,480	6,971	6,154	6,089	5,354	5,322	7,840	6,107
2024年累計	1,305,808	1,377,118	87,009	716,367	175,889	474,773	650,951	1,838,198	1,720,159	8,346,272
前年同期比	95.0%	137.8%	107.0%	69.4%	363.1%	258.8%	157.9%	124.6%	113.2%	111.1%

エスフーズ第3四半期は増収減益、売上高は前年同期比4・3%増

エスフーズが14日に発表した2025年2月期第3四半期連結業績によると、売上高は3280億6700万円(前年同期比4・3%増)、損益面については、米国における生体牛高の影響とニュージーランドにおける中国向け販売不振により海外事業が赤字となったことに加え、国内の事業においても原材料などのコスト高の環境下で収益確保に苦しんだことから、営業利益32億9800万円(68・3%減)、経常利益42億3800万円(64・6%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益14億7600万円(82・5%減)となった。

セグメント別にみると、食肉等の製造・卸売事業は、売上高3040億9千万円(4・6%増)、セグメント利益27億8600万円(71・3%減)、食肉等の小売事業は、売上高174億3500万円(0・9%減)、セグメント利益8億9900万円(17・5%減)。また、食肉等の外食事業は売上高59億5100万円(7・2%増)、セグ

メント利益3億7100万円(12・9%減)となった。

食肉等の製造・卸売事業においては、東日本での営業力の強化を継続しているが、昨今の飼料、物流などのコスト高騰を受け、より効率的な事業運営が求められている。その中で在庫の適正化や経費管理の徹底を図るとともに、老朽化施設・設備の整理や生産拠点の集約などにも着手。食肉等の小売事業においては、不採算店閉鎖を実施するとともに、新規ディベロッパーとの取り組みを含めた出店や改装店の立ち上げのほか、新業態店舗モデルの開発および推進を図っている。また、新商品の開発を進め、魅力ある商品や売り場の再構築を実施。食肉等の外食事業においては、原材料費やエネルギー価格の上昇を受け、メニュー改定を実施するなどの施策を行っている。

11月の豚肉輸出は、前年同月比6・3%増で輸出額も増

財務省貿易統計による11月の国産豚肉輸出量は107t(前年同月比6・3%増)と前年同月より減少。前月比では12・3%減少した。輸出先国は合計5カ国・地域で、国別にみると香港が最も多く、合計93t(6・2%増)。次いでシンガポール、タイ、ベトナム、カンボジアとなった。輸出額は合計1億4889万円(11・5%増)となった。キロ当たり輸出単価は1394

円。

一方、鶏肉・鶏くず肉などは、合計381t(14・4%減)。輸出先では、香港が最も多く307t。そのうちモモ肉、ムネ肉は102t(約2・7倍増)となった。次いでベトナムの75t(40・4%減)。キロ当たり輸出単価は385円。

豚肉輸出の表

単位:キロ

	香港		ベトナム	シンガポール	マカオ	タイ	その他国	合計
	冷蔵	冷凍	冷凍	冷凍	冷凍	冷凍		
2024年2月	1,011	53,904		40,646	5,769		519	101,849
3月	941	70,197		63,874		2,022	108	137,142
4月	1,001	55,225		46,326		2,855	114	105,521
5月	1,684	55,203		17,418	16,120	3,646		94,071
6月	1,328	73,301		30,669		2,061	104	107,463
7月	1,181	63,653		31,372	2,021	2,337		100,564
8月	985	65,468	155	19,695	4,620	4,568		95,491
9月	2,455	60,136		12,138	5,295	872	1,829	82,725
10月	919	95,797	134	24,291	670			121,811
11月	762	92,224	138	13,372		201	113	106,810
前年同月比	56.7%	107.0%	-	139.1%	-	-	3.3%	106.3%
2024年累計	14,522	749,748	427	312,291	34,495	21,070	2,901	1,133,199
前年同期比	85.1%	79.6%	95.7%	82.9%	62.0%	26.4%	61.5%	80.1%

【調理食品支出金額・11月】合計1万2853円で0・1%増

総務省家計調査(既報)によると、11月の調理食品支出金額は1万2853円(前年同月比0・1%増)と増加した。

弁当や調理パンなどの主食的調理食品の支出金額は、5450円で前年並みとなった。他の調理食品は7403円(0・3%増)と増え、このうちシューマイは98円(11・4%増)、焼き鳥は221円(7・3%増)、冷凍調理食品は905円(4・1%増)、カツレツは192円(3・8%増)と増加したが、コロッケは190円(1・6%減)、天ぷら・フライは1065円(1・9%減)、ハンバーグは142円(2・1%減)、ギョーザは165円(11・3%減)で前年割れだった。

調理食品支出金額

	9月		10月		11月	
調理食品	12,519	102.0	13,068	101.5	12,853	100.1
主食的調理食品	5,436	101.1	5,616	102.8	5,450	100.0
弁当	1,575	103.3	1,594	102.6	1,501	98.2
すし(弁当)	1,207	98.5	1,213	106.0	1,126	99.4
おにぎり・その他	525	104.4	545	103.4	518	102.8
調理パン	577	104.0	574	104.9	560	101.1
他の主食的調理食品	1,552	98.9	1,689	99.9	1,744	100.7
他の調理食品	7,083	102.7	7,452	100.4	7,403	100.3
うなぎのかば焼き	146	109.0	119	106.3	96	91.4
サラダ	568	106.6	573	104.4	545	109.4
コロッケ	188	100.0	205	100.5	190	98.4
カツレツ	190	104.4	195	101.6	192	103.8
天ぷら・フライ	1,044	93.4	1,066	95.9	1,065	98.1
シューマイ	106	115.2	94	94.9	98	111.4
ギョーザ	157	95.2	162	93.6	165	88.7
焼き鳥	226	100.0	214	97.3	221	107.3
ハンバーグ	139	113.9	143	105.9	142	97.9
冷凍調理食品	901	101.8	952	105.4	905	104.1
総菜材料セット	288	90.9	340	99.4	340	82.1
他の調理食品のその他	3,129	106.6	3,389	100.2	3,443	101.0

資料:総務省「家計調査報告(全国・全世帯1世帯あたり品目別)」

伊藤ハム米久 HD の穀うま (ロース) が ITI の 2025 年度審査会で三つ星を獲得

伊藤ハム米久ホールディングスは14日、ITI (International Taste Institute=国際味覚審査機構) の「2025年度審査会」において、ブランド豚肉「穀うま (ロース)」が優秀味覚賞最高ランクの三つ星を受賞したことを発表した。

「穀うま」は、麦類を多く含む6種類の穀物をバランス良く配合したオリジナルの飼料を一定期間与えることで、一般豚と比較しうまみ成分が約2・7倍、コク・まろやかさ成分が約1・6倍のおいしさを追求した豚肉 (検査機関=ビューローベリタスエフイーエーシー株、部位=ロース (6検体)、実施日=2023年4月)。外部認証を取得した全国各地の施設で、徹底した衛生管理・品質管理体制の下、食肉加工されており安定した供給が可能となっている。

同社は、中期経営計画2026において基礎収益力の底上げを掲げ、食肉商品の付加価値化としてブラ

ンドミートの育成を進めており、今後も価値ある商品を提供していくとしている。なお、穀うま (バラ・カタロース・ヒレ) においても二つ星を受賞。初出品で同一ブランド4部位が星を獲得している。

[穀うま (ロース) が評価された点] 全体的に脂肪がうまく分散してバランスが調和された優れた品質である点。口に含むと上品なスモーキーさ、甘み、うまみを感じられ、素晴らしくジューシーな味わいのおいしい豚ロース肉である点。塩味、滋味、うまみのハーモニーがあり、ほかとは一線を画す素晴らしい豚肉 (ロース) である点。(※ITI審査員からのコメント・提案より抜粋)



焼き肉店の倒産が過去最多の 45 件、大手チェーンと競合で息切れー TSR 調査

光熱費上昇や人手不足に加え、輸入牛肉の価格高騰が追い打ちをかけ、焼き肉店が苦境に直面している。東京商工リサーチ (TSR) は12日、2024年「焼肉店倒産状況」を発表した。

それによると、24年の「焼肉店」の倒産 (負債1千万円以上) は45件 (前年比66・6%増) で、集計を開始した09年以降で最多を記録し、初めて40件を超えた。倒産急増の背景は、コスト高と競争激化が大きい。輸入肉だけでなく和牛価格も高止まりし、野菜などの仕入コストも上昇している。

値上げした焼き肉店も多いが、他業態からの焼き肉店への進出などで価格競争、顧客争奪が激しく、価格転嫁が十分にできない値上げのケースもある。

これまでの最多は12年の35件。11年4月、北陸の焼き肉店で発生した集団食中毒の事件が社会問題化した。この影響が全国の焼き肉店に波及し、客足も遠いた。その後、焼き肉店はサービスやメニューの強化などに努め、徐々に客足は回復した。特に、食べ放題や希少部位の人気上昇のほか、1人焼き肉ブーム

も広がり、倒産は落ち着いた。

コロナ禍は感染を避けて飲食店利用が急減したが、焼き肉店は換気能力を強力な武器にして来店客を確保。飲食店で倒産、休業業が急増する中、20年の倒産は14件に減り、焼き肉店は数少ない勝ち組だった。しかし、他業態からの進出や、大手チェーン店の新規出店が加速し、円安と物価高に見舞われて輸入牛肉や野菜、光熱費などのコストが高騰、街の焼き肉店の経営を圧迫している。

24年の焼き肉店倒産45件のうち、販売不振が42件 (前年比100・0%増) と倍増し全体の93・3%を占めた。事業規模では40・0%が個人企業、従業員10人未満が44件 (構成比97・7%) と、倒産した焼き肉店は資金力の乏しい小・零細規模が圧倒的に多い。

TSRでは「小・零細規模の焼き肉店では、仕入れの価格交渉が難しく、省エネなどの設備投資も容易ではない。さらに大手チェーン店との価格競争に否応なしに巻き込まれ、しばらく淘汰が加速しそう」とみている。

【鶏肉需給動向・11月】 推定出回り量は前年同月比1・8%増

農畜産業振興機構が発表した2024年11月分の鶏肉需給動向によると、推定出回り量は19万9413t(前年同月比1・8%増)と、前年同月から増加した。このうち国産品は14万5657t(前年同月並み)、輸入品は5万3756t(7・2%増)となった。

また、国内生産量は14万4235t(1・7%減)、輸入量は5万1967t(32・6%増)と大幅に増加した。これにより、推定期末在庫は国産品が3万780t(0・3%減)、輸入品が13万9323t(16・1%増)で合計17万103t(12・8%増)となった。

[鶏肉需給]

単位:トン、%

年月	生産量	輸入量	推定期末在庫		推定出回り量		
			輸入物	国産物	輸入物	国産物	
4年	8	133,324(101.6)	47,374(100.9)	121,213(108.8)	28,502(81.7)	47,289(96.1)	133,706(102.1)
	9	135,582(99.0)	46,798(103.5)	121,217(112.7)	25,844(76.5)	46,788(95.4)	138,240(100.1)
	10	144,773(99.2)	53,930(105.3)	127,502(117.8)	25,218(72.7)	47,645(94.2)	145,399(100.3)
	11	144,253(98.1)	49,783(86.2)	129,939(113.3)	23,373(69.7)	47,346(92.3)	146,098(98.6)
	12	153,097(97.4)	44,279(73.0)	124,180(108.5)	24,644(69.5)	50,038(82.1)	151,826(97.8)
5年	1	137,012(99.8)	44,361(82.5)	125,588(101.9)	24,433(69.6)	42,953(95.5)	137,223(99.7)
	2	133,529(98.5)	47,115(95.0)	128,113(99.1)	24,979(73.7)	44,590(102.5)	132,983(97.3)
	3	142,908(99.4)	47,545(105.3)	126,853(101.4)	27,049(83.2)	48,805(99.1)	140,838(97.0)
	4	139,306(98.7)	47,412(108.8)	119,503(102.8)	27,547(87.9)	54,762(104.5)	138,808(97.5)
	5	142,849(102.8)	51,717(121.7)	127,502(110.2)	29,343(94.2)	43,718(101.5)	141,053(101.4)
	6	141,735(100.9)	57,706(110.6)	133,613(112.2)	28,598(93.7)	51,595(105.7)	142,480(101.0)
	7	133,663(100.5)	46,686(102.3)	129,613(107.0)	30,604(106.0)	50,686(116.4)	131,657(97.8)
	8	133,703(100.4)	55,955(118.1)	133,334(110.0)	31,998(112.3)	52,234(110.5)	132,309(99.1)
	9	135,797(100.3)	48,372(103.4)	132,497(109.3)	30,049(116.3)	49,209(105.2)	137,746(99.8)
	10	145,552(100.5)	47,805(88.6)	130,926(102.7)	29,754(118.0)	49,376(103.6)	145,847(100.3)
	11	146,801(101.8)	39,181(78.7)	119,960(92.3)	30,873(132.1)	50,147(105.9)	145,682(99.7)
	12	155,398(101.5)	50,981(115.1)	115,660(93.1)	33,551(136.1)	55,281(110.5)	152,720(100.6)
6年	1	140,093(102.0)	54,687(123.3)	125,877(100.2)	31,152(127.5)	44,470(103.5)	142,492(103.5)
	2	144,552(108.0)	55,395(117.6)	124,137(96.9)	34,868(139.6)	57,135(128.1)	140,836(105.6)
	3	143,802(100.4)	52,670(110.8)	129,110(101.8)	36,868(136.3)	47,697(97.7)	141,802(100.5)
	4	146,411(104.8)	52,006(109.7)	127,057(106.3)	35,506(128.9)	54,059(98.7)	147,773(106.2)
	5	147,168(103.0)	53,259(103.0)	131,041(102.8)	36,263(123.6)	49,275(112.7)	146,411(103.8)
	6	143,169(101.0)	49,373(85.6)	133,066(99.6)	36,708(128.4)	47,348(91.8)	142,724(100.2)
	7	139,722(104.5)	51,778(110.9)	133,594(103.1)	35,468(115.9)	51,250(101.1)	140,962(107.1)
	8	130,029(97.3)	56,697(101.3)	137,941(103.5)	35,094(109.7)	52,350(100.2)	130,403(98.6)
	9	135,916(100.1)	49,125(101.6)	136,518(103.0)	33,154(110.3)	50,548(102.7)	137,856(100.1)
	10	147,681(101.5)	62,323(130.4)	141,112(107.8)	32,202(108.2)	57,729(116.9)	148,633(101.9)
	11	144,235(98.3)	51,967(132.6)	139,323(116.1)	30,780(99.7)	53,756(107.2)	145,657(100.0)

牛肉輸出再開など、日本産農畜産物の輸出促進に向け中国出張一江藤大臣

江藤拓農水大臣は15～17日、中国の王令浚海関総署副署長、韓俊農業農村部長との会談を行うため、中国に出張する。これについて、14日に行われた閣議後会見で、江藤大臣は「輸入検疫を担当する王令浚副署長には、日本産水産物の輸入規制の撤廃に加え、牛肉の輸出再開、精米の輸出拡大について自ら働きかけたい。中国は大きなマーケットである。農業政策の中で最も重要だと考えた出口対策。良いものを作ることは日本は長けており、いかに付加価値をつけてマーケットを開拓するかが日本の農業にとって非常に大切である。牛肉については、2019年

に大臣を務めていた時、動物衛生検疫協定には署名を済ませている。まさに、再開まであと一歩というところまで漕ぎ着けている。再び、大臣という機会を得たので、自ら中国に行き発効に向けて努力いただきたいと具体的にお願いしたいと思っている」と説明した上で、「中国の方々も日本にくると日本産牛肉のおいさに舌鼓を打っていただいている。年末年始は、子牛や枝肉の価格も戻ってきているが、新たなマーケットを設けることは和牛、F1、乳牛にとっても良いことだ」と述べた。

日冷倉と東冷倉が新年賀詞交歓会、業界関係者約 600 人が出席

一般社団法人日本冷蔵倉庫協会と東京冷蔵倉庫協会は10日、令和8年新年賀詞交歓会を東京プリンスホテルで開催。会場には約600人の業界関係者が集まった。

冒頭、日本冷蔵倉庫協会の浜田晋吾会長(上写真)は、「昨年は、異常気象や終わりのみえない紛争など、さまざまな現象に直面した。一方、インバウンド効果もあり、日本の景気も緩やかに回復し、企業業績、個人消費も比較的堅調な様子だが、引き続き、為替の高騰やさまざまなコストの上昇という不確実な要素への注視が必要である。物価と賃金が共に上昇する好循環を生み出すべく引き続き頑張っていたきたい」と述べ、「われわれ冷蔵倉庫協会もさまざまな課題が提起されている。難易度の高い課題が多いが、それだけやりがいもある。これからも、当協会は挑戦のエネルギーを高めながら、皆さまの力添えを得て、発着荷主、運送業界、国や関係省庁を含め、オールジャパンで真摯^{しんし}に取り組み、結果を出していきたい」と謝辞とともに、ことしの抱負を述べた。

続いて、来賓を代表し、国土交通省物流自動車局の木村大官房審議官が祝辞を述べた後、東京冷蔵倉庫協会の武田信一郎会長(下写真)が乾杯のあいさつを務めた。武田会長は「2024年は電気代の高騰も一段落して、2024年問題の対応についても一定の成果を得られたと思っている。25年も引き続き課題解決に向けて、着実に進んでいきたい。とくに、深刻化している人手不足に対して力を入れていきたい。賃金は継続的に上げていかなくてはいけない。そのため



に適正料金をいただくのはもちろんだが、価格転嫁にも一定の上限があるので、冷蔵庫自体の事業の効率性を高め、余地を作っていかななくてはいけない」とし、「そのためには商慣習の見直しをもう一歩二歩踏み込む必要がある。商慣習の見直しには、人手不足に対応する守りの側面と、現場力を引き上げて収益力を高める攻めの部分がある。冷蔵庫は日本の大切な事業インフラだと思う。その使命を十分に感じて、熱量を投じて今年度も取り組んでいく」と語った。

宮崎、岩手、愛知、千葉で今シーズン 25～28例目となる鳥フルー農水省

農水省は11～12日にかけて4事例の高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認を発表している。各農場の飼養状況など(所在地、事例数、飼養状況)は次のとおり。

宮崎県串間市、25例目、肉用鶏約3万羽▽岩手県盛岡市、26例目、採卵鶏約40万羽▽愛知県常滑市、27例目、採卵鶏1万7千羽▽千葉県銚子市、28例目、採卵鶏41万羽

【輸入副生物現物相場】 平常日に入り、需要は落ち着いたが当面、下値は限定的か

年末年始の商戦と成人の日を含めた3連休が過ぎ、今週から平常日がスタートした。年末年始の状況については、現在、弊社でも調査中だが、日の並びの良さから休みの営業日数が長かったことや、円安や物価高で海外旅行・国内旅行を敬遠した層が「家や外食でごちそうを楽しむ」という消費行動が影響したのか、おむね昨年よりも良かったという声が比較的

多いようだ。

今週からは末端需要は反動で大きく落ち込み、春の行楽需要を迎えるまでは一般的に「端境期」と認識されるが、輸入内臓相場については、為替レートがやや円高に振れたものの、依然として160円前後で推移していることや、米国産のハンギングテンダーやアウトサイドスカートなどは現地の引き合いも強いこ

と、もともとの生産頭数が減少傾向であるといった影響も含めると、次回の入船分の価格も下がってくる要素は薄く、需要とは関係なく主要アイテムについては高値圏で推移していくと思われる。

また、来週頭にはトランプ大統領が就任し、どのような政策を提言していくのかも注目されており、それによって為替レートの変動や、農畜産物の輸入価格への影響が懸念されている。こうした事情から、大手各社は「先行き不透明で、できるだけ在庫を持たたくない」という、ここ数年続いてきた基本スタンスから一転し、在庫を積極的に積み増す動きが加速すると思われる。結果として、3月の決算期には一部アイテムの整理の動きはあるだろうが、全体相場は高値を維持していくのではないかと見られる。白物も、気温が寒さのピークを迎えつつあることもあり、内外食向けともに引き合いはますます堅調。

【輸入副生物現物相場】

円/キロ、税抜き

	商品名	原産地	規格	円/キロ、税抜き	
				価格	気配
フ ロ ー ズ ン	牛タン	米国	グラス	2200~2600	→
		豪州		2100~2300	→
		欧州		2000~2300	→
	ハンギングテンダー (サガリ)	米国	チョイス	1600~	→
		メキシコ	プライム	-	→
	アウトサイドスカート(ハラミ)	米国	チョイス	2500~2800	↑
		メキシコ	プライム	-	→
	シンスカート、シックスカート	豪州	バルク	~1100	→
	シンスカート(皮なし)	豪州		1500~	→
	レバー	豪州		320~	→
		米国		350~	→
	トライブ		1.5UP	-	→
		豪州	700gUP	-	→
			500gUP	-	→
	スモール	米国		500	→
ラージ	米国		650~700	→	
	豪州		680~720	→	
アキレス	米国		1200	→	
テール	豪州		1000~1400	→	
メンブレン	豪州		600~	→	
チ ル ド	牛タン	米国	グレイン	2600~3000	→
		豪州		2300~2700	→
		豪州		3800~4500	→
	牛タン(ムキタン)	豪州		-	→
	ハンギングテンダー (サガリ)	米国	チョイス	1900~2300	↑
			プライム	2400~2700	↑
アウトサイドスカート(ハラミ)	米国	チョイス	2600~3200	→	
		プライム	3300~3600	-	
		メキシコ	-	→	

エスフーズが配当方針変更、26年2月期から株主資本配当率を3%に

エスフーズは14日、同日開催の取締役会において、配当方針の変更について、次のとおり決議した。

【配当方針の変更】同社は、創業以来一貫して株主の利益を最も重要な課題として経営を行ってきた。資本コストや株価を意識した経営の実現に向け、持続的な成長を通じて株主への利益還元の実現を図るため、配当方針を変更することとした。

「安定配当の継続」「今後のグループ経営の事業基盤強化に向けた内部留保の積極活用」などの観点から、連結業績を勘案の上、連結の株主資本配当率(DOE)3%(変更前2・5%)をメドに、安定的な利益還元を実施したいと考えている。

【適用時期】2026年2月期から適用する。

[資料] 日本食肉流通センター週間市況 〈輸入牛肉〉

(令和6年12月16日～12月31日)

(単位：キロ当たり円、税込み、重量 kg)

		首都圏					近畿圏				
		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
米国C	チャックアイロール	2,322	2,398	2,591	2,434	14,891	2,322	2,419	2,430	2,395	8,139
	ショートプレート	1,372	1,382	1,565	1,410	34,725	1,328	1,328	1,350	1,334	14,950
	リブアイロールリップオン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ショートリブボンレス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	111
	チャックリブ	-	-	-	-	225	-	-	-	-	-
	ストリップロイン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
米国F	チャックアイロール	2,441	2,441	2,700	2,475	4,553	2,376	2,376	2,484	2,417	2,864
	ショートプレート	1,323	1,328	1,350	1,336	11,288	1,188	1,242	1,350	1,246	8,756
豪州チルド	チャックアイロール	1,890	1,890	1,890	1,890	2,659	-	-	-	-	-
	チャックロール	-	-	-	-	-	1,404	1,609	1,706	1,620	14,193
	チャックテンダー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	351
	クロッド	-	-	-	-	698	1,490	1,512	1,566	1,525	2,160
	ポイント&ブリスケット	1,404	1,458	1,466	1,457	6,791	-	-	-	-	114
	ナーベル&ブリスケット	-	-	-	-	732	-	-	-	-	737
	チャックショートリブ	-	-	-	-	455	-	-	-	-	-
	キューブロール	-	-	-	-	68	-	-	-	-	39
	ストリップロイン	2,430	2,430	2,430	2,430	6,653	-	-	-	-	63
	テンダーロイン	4,860	5,540	5,778	5,428	1,052	-	-	-	-	190
	トップサイド	1,458	1,458	1,458	1,458	1,593	1,490	1,674	1,836	1,656	3,864
	シックフランク	-	-	-	-	39	-	-	-	-	137
	D-ランプ	-	-	-	-	157	-	-	-	-	-
アウトサイド	-	-	-	-	26	1,404	1,404	1,490	1,426	2,737	
取引重量合計		86,605					59,405				

		中京圏					九州圏				
		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
米国C	チャックアイロール	2,419	2,419	2,419	2,419	2,289	2,300	2,365	2,592	2,402	19,138
	ショートリブボンレス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	チャックリブ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	48
米国F	チャックアイロール	-	-	-	-	33	2,538	2,840	2,894	2,790	7,137
	ショートプレート	1,393	1,404	1,404	1,401	4,134	1,296	1,339	1,350	1,336	7,517
豪州チルド	チャックロール	-	-	-	-	-	-	-	-	-	160
	チャックテンダー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	クロッド	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ポイント&ブリスケット	1,436	1,458	1,458	1,455	1,390	-	-	-	-	21
	ナーベル&ブリスケット	1,026	1,026	1,026	1,026	3,679	-	-	-	-	-
	キューブロール	-	-	-	-	18	-	-	-	-	40
	ストリップロイン	-	-	-	-	274	-	-	-	-	409
	テンダーロイン	-	-	-	-	363	-	-	-	-	13
	トップサイド	1,728	1,793	1,793	1,779	9,358	1,814	1,814	1,814	1,814	2,887
	シックフランク	-	-	-	-	584	-	-	-	-	786
D-ランプ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アウトサイド	-	-	-	-	543	-	-	-	-	-	
取引重量合計		22,665					38,156				

※豪州産の価格はすべてグレインフェッド・ミドル。

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 1月14日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	4,323	3,462	2,163	-	-
		安値	2,155	2,046	2,097	-	-
		平均	2,929	2,442	2,128	-	-
	211頭	頭数	184	25	2	-	-
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	-	-	-
	-頭	頭数	-	-	-	-	-
	去 A	高値	3,022	2,346	-	-	-
		安値	2,216	2,100	-	-	-
		平均	2,430	2,226	-	-	-
	72頭	頭数	58	14	-	-	-
去 B	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	-	2,026	-	-	
1頭	頭数	-	-	1	-	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B	平均	-	1,607	1,575	1,355	-
		14頭	頭数	-	8	5	1
	雌 C	平均	-	-	-	-	-
	-頭	頭数	-	-	-	-	-
	去 B	平均	1,754	1,719	1,552	1,439	-
20頭		頭数	2	5	8	5	-
去 C	平均	-	1,520	-	-	-	
1頭	頭数	-	1	-	-	-	

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	403 398	1,198 1,106	- 216.0	(競り)	(相対)	
				-	15	56

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,538	1,924	1,564	1,356	-
	B	2,220	1,532	1,362	1,207	-
和 去	A	2,328	2,247	2,031	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	850	811
	C	-	-	-	854	734
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	1,802	1,616	1,545	1,377	-
	C	-	-	1,548	1,334	-
交 去	B	-	-	1,527	1,224	-
	C	-	-	1,419	1,091	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	583	703	918	918	907
	安値	528	486	468	458	367
	平均	554	516	504	507	481
	頭数	(6)	(284)	(520)	(227)	(69)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
搬入 相対	高値	-	-	666	658	580
	安値	-	-	666	645	486
	平均	-	-	666	651	527
	頭数	(-)	(-)	(7)	(4)	(4)

[大阪食肉卸売市場] 1月14日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) []は豚規格

	5[極上]	4[上]	3[中]	2[並]	1[等外]
和 雌 A	2,479	2,095	1,944	-	-
(頭数)	(5)	(8)	(1)	(-)	(-)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
和 去 A	2,490	2,208	-	-	-
(頭数)	(11)	(3)	(-)	(-)	(-)
B	-	2,100	-	-	-
(頭数)	(-)	(2)	(-)	(-)	(-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	1,840	-	-	-
C	-	1,615	-	-	-
交雑去 B	-	1,684	1,636	-	-
C	-	1,685	1,592	-	-
豚	-	552	493	404	481

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	1月14日	1月10日	(1月累計)
豚	76,500	69,500	434,200
成牛計	4,900	4,470	27,990
和牛雌	1,170	1,130	6,510
和牛去勢	1,360	980	7,500
乳牛雌	850	800	4,520
乳牛去勢	570	370	3,150
交雑雌	450	580	2,920
交雑去	490	560	3,310

[去勢牛B3・2規格 枝肉取引価格] 1月14日

	1,488円	(前日 1,523円)
東京		
大阪	1,636円	(前日 1,572円)

[豚・全農建値] 1月14日

上	中	取引頭数	市況
530円	509円	1,095頭	急落

と畜 売買	牛 93頭 牛 51頭	豚 171頭 豚 246頭	牛概況 豚概況	もちあい 堅調
----------	----------------	------------------	------------	------------

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 1月14日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	648 (648)	- (-)	5,953	-	もちあい
仙台 [中]	595 (629)	567 (608)	686	59	続落
宇都宮 [地]	496 (530)	480 (513)	1,861	107	続落
茨城 [地]	- (523)	- (506)	1,498	-	上場なし
群馬 [地]	545 (554)	456 (486)	2,967	450	続落
さいたま [中]	505 (536)	484 (497)	358	364	続落
東京 [中]	516 (542)	504 (520)	1,198	1,106	続落
横浜 [中]	569 (656)	540 (606)	662	630	続落
山梨 [地]	651 (-)	633 (-)	228	115	反落
浜松 [地]	586 (591)	532 (543)	253	32	もちあい
名古屋 [中]	571 (596)	560 (556)	899	231	下押し
京都 [中]	588 (574)	584 (549)	128	69	もちあい
大阪 [中]	552 (540)	493 (481)	171	205	堅調
神戸 [中]	- (526)	- (529)	156	-	上場なし
岡山 [地]	677 (594)	669 (566)	306	365	暴騰
広島 [中]	581 (615)	539 (578)	349	75	急落
福岡 [中]	640 (620)	617 (581)	574	123	反発

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。茨城と京都の前日は11日。宇都宮、浜松、名古屋は13日。

[日本食肉流通センター] 1月7日~1月13日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

[食鳥正肉日経相場] 1月10日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇首都圏 総重量 1,307,540 kg

◇東京 (7社)

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,126	1,267	1,324	1,253	49,985
うで	734	784	799	778	113,723
ロース	1,067	1,145	1,220	1,140	89,277
ばら	1,143	1,196	1,350	1,206	108,583
もも	745	774	784	770	179,943
ヒレ	1,091	1,106	1,123	1,106	17,179
セット	937	1,032	1,062	1,024	748,850

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	703	739	863	181
ムネ	369	398	526	143

◇大阪 (3社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	718	775	1,030	9
ムネ	380	439	590	6

◇近畿圏 総重量 676,596 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,242	1,319	1,350	1,318	58,970
うで	700	745	758	733	105,985
ロース	1,080	1,229	1,246	1,198	91,584
ばら	1,230	1,311	1,359	1,296	103,774
もも	702	719	756	724	153,662
ヒレ	1,069	1,242	1,355	1,211	10,634
セット	842	1,025	1,049	988	151,987

[農水省統計情報部食鳥市況] 1月10日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽モ	手羽サ	ササミ
高値	1,011	627	550	600	650
安値	719	391	290	360	350
平均	759	420	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

■業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

■畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 470頁 14,850円(送料別)

◆食肉販売&経営関連

銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

◆イベント

■国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランク判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、B5判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

◆教材&レポート等

■あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男 著
鏡 晃

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

■知識を豊かにする 食肉用語事典〈新改訂版〉

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

■~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ

牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

牛枝肉・牛部分肉について、各方面のプロに幅広く取材し、「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

◆ステーションナリー

食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します

お申し込みは電話かFAXで
お近くの食肉通信社まで

株式会社 食肉通信社

■大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

■東京 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町18-1

TEL 03(3663)2011 FAX 03(3663)2015

■九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995